

科目名	子ども学演習					開講 キャンパス	神園
担当者	眞田 英進						
開講年次	3	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	この授業では、子どもを取り巻く様々な環境問題、子どもの歴史、心身の発達、遊び、子どもを対象とした表現活動、子どもの福祉など、子ども学に関する知識を深める。授業では、1) 文献資料の収集、2) 調査・実験、3) レポートの作成、4) 発表や討論、5) 子育て支援体験活動を行い、主体的な学習力の向上をめざす。また、子どもに関する知識や理解を深めるため、実地見学や観察、調査などの体験的学習を積極的に行う。 なお、本演習は4年次開講「卒業研究」の基礎演習として位置づけられる。						
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもや教育、保育に関する問題に関心を深め探求することができる。</li> <li>2) 文献・資料を読んでその内容や要旨レジュメにまとめることができる。</li> <li>3) 他学生の報告を傾聴して、質問したり自分の考えを表明することができる。</li> <li>4) 他学生と協同して学習や研究のテーマを追求できる。</li> <li>5) 体験的实践参加の際には真剣に誠意ある態度で臨むことができる。</li> <li>6) 研究の計画や具体的方法について主体的に考えることができる。</li> <li>7) 卒業論文作成のための基本的・総合的能力を習得することができる。</li> </ol>						
学習方法	文献（テキスト）や研究論文等の購読、発表・討論、宿題レポート、体験的学習（フィールドワーク）						
テキスト及 び参考書等	テキスト：池田・藤田・園田編「子どもの発達と支援」ナカニシヤ出版。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	◎				25	
授業態度	◎		◎			25	
受講者の発表			◎	○		25	
授業への参加度			◎	○		25	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
<b>授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）</b>							
前 期	第1週	オリエンテーション（ゼミ・教員紹介、ゼミ配属方法について説明）					
	第2週	研究室訪問（選択しようとするゼミの教員を訪問し、研究テーマについて話し合う）・希望調査票の提出					
	第3週	ゼミ別オリエンテーション（授業の進め方、顔あわせ）					
	第4週	子ども学（定義・内容）と本ゼミでの研究領域分野との関連・位置					
	第5週	子どものこころの発達（発達原理）					
	第6週	子どものこころの発達（乳児期・幼児期）					
	第7週	子どものこころの発達（児童期・青年期）					
	第8週	子どもの身体発育と病気（身体発育・機能）					
	第9週	子どもの身体発育と病気（外傷・感染症等）					
	第10週	子どもの状態を把握する（総合発達検査）					
	第11週	子どもの状態を把握する（知能検査①）					
	第12週	子どもの状態を把握する（知能検査②）					
	第13週	子どもの状態を把握する（障害診断検査①）					
	第14週	子どもの状態を把握する（障害診断検査②）					
	第15週	子どもの心と脳の関係（心と身体の病）					
	第16週	前半のまとめ					
後 期	第1週	子どもの障害と対応（障害区分と理解）					
	第2週	子ども支援（乳幼児支援プログラム）					
	第3週	子ども支援（言語能力支援）					
	第4週	子ども支援（認知・行動支援）					
	第5週	子ども支援（虐待・いじめ）					
	第6週	子ども支援（特別支援教育体制）					
	第7週	子ども支援（自閉症スペクトラムー1）					
	第8週	子ども支援（自閉症スペクトラムー2）					
	第9週	子ども支援（学習障害・ADHD）					
	第10週	卒業研究に向けて（文献検索の方法・技術）					
	第11週	卒業研究に向けて（テーマ選定について）					
	第12週	卒業研究に向けて（フィールドワーク・関心に応じて）					
	第13週	子育て支援活動（計画立案・準備）					
	第14週	子育て支援活動（子どもミュージアム・リハーサル）					
	第15週	子育て支援活動（子どもミュージアム）					
	第16週	後半のまとめ					
備考	本授業の一環として、西九州大学子ども研究ネットワーク主催事業「子どもミュージアム」に参加します。						